

平成28年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区名	北
学校名	豊崎中学校
学校長名	和田佳邦

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語・数学）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの学力向上を目指しています。学校の現状や取組の参考にしていただきたいと思います。

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学）

- ・主として「知識」に関する問題（A問題）
- ・主として「活用」に関する問題（B問題）

(2) 質問紙調査

- ・生徒に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の中学校第3学年の原則として全生徒
- ・豊崎中学校では、第3学年 83名

平成28年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

今年度は大阪市の平均を上回ったが、目標の全国平均を上回らなかった。しかし平均無回答率は全国平均を下回り、無気力な生徒が少なく何事にも積極的な学年の状況がうかがわれる。領域別では、国語はどの項目も全国平均を下回ったが、数学はAでは数と式、図形で全国を上回り、Bでは関数と資料の活用で全国平均を上回った。家庭では朝食をきっちり食べさせており、非常に落ち着いた状態で学校生活を送れているが、学習塾へ行かせている割合は高く（82.3%）予習などはよくできているが、学校の宿題や復習をしている生徒の割合は低く（49.4%）学力の定着の意味でも、家庭への理解と協力が必要である。学校では読書習慣や毎朝読書タイムの時間を確保し取り組んでいるが、読書の時間は短く、新聞に目を通す生徒の割合は低い（読んでいない86.1%）。12時以降に寝る割合が高く（43%）スマホ等のSNSの影響が一因にあると考えられる。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕平均正答率はABとも全国平均を下回った。領域別では、Aでは話すことが5.1ポイント、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項が4ポイント低く、Bでは書くこと6ポイント、読むこと4.2ポイントも低い。無回答率は全国平均より低いにも関わらず正答率が低いのは、問題文をよく読んでいないことが大きな要因である。習熟度別少人数授業やTTなどにより漢字・文法などの基礎事項はよくできているが、読解力が少し弱く、長文や資料を読んで自分の考えや意見をまとめたり、組み立てたりする項目はできていない。本校では朝読（毎朝10分自分の好きな本を読む）、毎学期読書週間（総合等の時間に図書室を利用する）の取り組みを続けているが、読ませるだけでなく自分の読んだ本のプレゼンをさせるなどの工夫が必要である。

〔数学〕目標の全国平均は上回らなかったが、大阪市の平均は上回った。領域別にみるとAでは数と式では1ポイント、図形では1.7ポイントまたBでは関数、資料の活用が全国平均を上回った。習熟度別少人数授業や放課後の補習授業の取り組みもあり、計算等の基本事項はよくできている。しかし国語同様に問題文をしっかりと読み取る力が弱く、無回答率が低いにもかかわらず正答率が伸びない要因と考えられる。また資料や問題文から考察して導き出す項目は例年低く、国語や数学に限らず全教科でこの部分の対策は必要である。

質問紙調査より

- ・国語の勉強は大切に思うが84.8%、将来役に立つ73.4%、最後まで解答を書こうと努力したが96.2%と非常に好意的な姿勢がうかがえる。しかし一方で読書が好きが64.5%に対して、国語の授業が好きが39.2%、あまりわかっていないが35.4%と比較的高い割合になっているのも現実である。
- ・習熟度別少人数授業、放課後学習、休業中の補習等の取り組みもあり数学の授業は大切68.4%、よく分かる64.6%、できるようになりたい88.2%、最後まで解答を書く努力をした91.2%と積極的な姿勢がうかがえる。しかし好きが34.2%、普段の生活の中で役に立つが33%と低く、いかにして意欲的な姿勢を高めていくかが課題である。
- ・学習塾に通っていない生徒は17.7%と低く82.3%の生徒が学習塾等に通っている。しかし家で学校の復習をする39.2%、宿題をする49.4%、自分で計画を立てているが20.3%と学習塾以外で学習している割合は低い。
- ・本校では朝読、読書週間の取り組みを続けており、読書の好きな生徒は64.5%もいる。しかし読書をする時間は学校での取り組み以外は短く、30分以下の生徒は82.3%もいる。また新聞を全く読まないも86.1%と高い割合になっている。それに対してスマホ等でメール等を2時間以上している生徒は42.6%もいる。

今後の取組

- ・今後も朝読や読書週間の取り組みは継続し、自分の読んだ本などのプレゼンをさせるなどの取り組みを進める。さらに学校図書館補助員や元気アップ事業との連携を図り、読み聞かせなど生徒がさらに読書に興味関心をもつための工夫をおこなう。
- ・今後も少人数授業や放課後学習、休業中の補習等の取り組みは継続する。また新たに校長経営戦略予算の学力向上支援サポーターを活用していく。さらに校内研修会を利用してICT活用事業を推進する。
- ・学力定着のためには宿題や復習等の家庭学習が必要不可欠である。学校では宿題や提出物の点検、単元テスト等の復習テストの実施、家庭では学習状況の把握を依頼する。
- ・アクティブラーニングの推進のために、理科教育を推進する。理科室の整備、ICT化、デジタル教材の活用を進め、アクティブラーニングを取り入れた校内研究授業を定期的実施する。